

令和 6 年 5 月 30 日現在

機関番号：34309

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11181

研究課題名(和文) 団地コミュニティのレジリエンス向上を目指すプログラムモデルの開発

研究課題名(英文) Development of a programme model to improve the resilience of housing estate communities.

研究代表者

松本 賢哉 (matsumoto, kenya)

京都橘大学・看護学部・教授

研究者番号：60454534

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：団地住民に平常時も災害時も健康的な生活を送るための知識や技術の提供と共に、住民主体で行う集う場の開催・運営を支援するという2つを合わせた介入を通して、団地住民のレジリエンス向上とソーシャルキャピタルの醸成を目指すプログラムモデルを作成した。その結果、低所得の高齢者のコミュニティのレジリエンスを高めるには、ソーシャルキャピタルを高める地域のイベントの計画や、防災訓練など積み重ねるコピング能力を高める介入の必要と考得られたが、新型コロナウイルス感染拡大により調査団地の自治会機能が低下し介入することが不可能に終わった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高齢化が進む団地の住民に基本情報として年齢、性別、家族同居の有無、レジリエンス・ソーシャルキャピタル尺度・ストレス対処能力を調査した。獲得的レジリエンスを従属変数としてソーシャルキャピタル・ストレス対処能力・年齢・性別・家族同居の有無などを独立変数として共分散構造分析した結果、獲得的レジリエンスを高める要因は、基本属性としては、仕事を持っていることが強く影響し、ソーシャルキャピタルのすべての因子、ストレス対処能力は情報収集と計画性と肯定的解釈が影響しているモデルが構築された(CFI:0.989 RMSEA:0.033 AIC:138.806)。

研究成果の概要(英文)：Through a combined intervention of providing residents with knowledge and skills to lead healthy lives both in normal times and in times of disaster, and supporting the organisation and management of resident-led gathering places, the programme model aims to improve the resilience and foster social capital of the residents of the housing estate, which will lead to an improvement in the community resilience of the housing estate. As a result, it was considered necessary to plan local events to increase social capital and to conduct disaster drills and other interventions to increase the coping capacity of the low-income elderly in order to improve community resilience, but the spread of the new coronavirus made it impossible to intervene due to the decline of the community association function in the study housing estate. However, it was impossible to intervene due to the decline in the functions of the residents' associations in the study area due to the spread of the new coronavirus.

研究分野：精神看護

キーワード：ソーシャルキャピタル レジリエンス コーピング 高齢家族 コミュニティ

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

我が国が少子超高齢化であることは自明のことであり、これからは「すべての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現」をめざし、健康日本 21 で健康寿命の延伸と健康格差の縮小が謳われている。そのためには、生活の質の向上と社会環境の質の向上が必要であり、疾患や介護の予防、社会参加の機会の増加、健康資源へのアクセスの改善と公平性の確保によって実現していく方針が示されている(厚生労働省)。社会参加の機会の増加に関しては、ソーシャルキャピタルと正の相関関係であると言われており、共に支え合い、健やかで心豊かな生活を国民が送るためには、ソーシャルキャピタルの醸成が不可欠である。ソーシャルキャピタルの豊かな社会は、様々な困難に粘り強くしなやかに対応できる。この粘り強くしなやかに対応する力をレジリエンスと呼んでおり、近年注目されている概念である。少子高齢化であり、災害も多発する我が国が、持続可能で、すべての国民が共に支え合い健康的な生活を送れる社会を作っていくには、個々のレジリエンス向上とコミュニティレジリエンス向上が不可欠であると考え、個々に対する、あるいはコミュニティに対する取組は行われた例があるが、個々とコミュニティの両方、平常時と災害時の両方を視野に入れたレジリエンス向上の取り組みは行われてきていない。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、団地住民に平常時も災害時も健康的な生活を送るための知識や技術の提供と共に、住民主体で行う集う場の開催・運営を支援するという2つを合わせた介入を通して、団地住民のレジリエンス向上とソーシャルキャピタルの醸成、それらが団地コミュニティレジリエンス向上に繋がることを目指すプログラムモデルを作成することである。

### 3. 研究の方法

#### 1) 団地住民のソーシャルキャピタルとコミュニティレジリエンスとの関連を実態調査した。

団地の棟長に、研究協力、研究成果の公表などについて説明し、アンケート配布協力者とした。アンケート配布協力者に各棟全戸に研究協力依頼状とアンケート用紙を配布した。アンケート用紙は無記名とし、基本情報として年齢、性別、家族同居の有無、レジリエンスとして二次元レジリエンス要因尺度、ソーシャルキャピタルとして地域への愛着尺度、ストレス対処能力として TAC-24 で構成されている。研究協力に同意する住民は、アンケートに回答し、匿名性を確保するために厳封した状態でアンケート配布協力者宅のポストに投函し回収した。

2) アンケート調査結果を参考に自治会役員や会員に対するフォーカスグループインタビューを実施し、それらの結果を参考に健康談話や防災に関することが話あえる集いの場築き、安定開催できるよう参加住民とその時々ニーズに合った企画を開催する予定であった。

### 4. 研究成果

#### 1)- 高齢家族が住むコミュニティでのレジリエンス能力の獲得に影響する要因

##### 目的

日本の高齢化は社会問題になっている。60 年前から建築ラッシュになった低所得者向けの団地も同じ問題になっている。強靱なコミュニティを作るために必要な要素を明らかにし、地域

医療関係者がアプローチするポイントを探った。

## 方法

団地自治会の役員に協力してもらい各棟全戸にアンケートを配布した。アンケート用紙は無記名とし、基本情報として年齢、性別、家族同居の有無、レジリエンスとして二次元レジリエンス要因尺度、ソーシャルキャピタル尺度、ストレス対処能力で構成されている。研究協力に同意する住民は、アンケートに回答し、封筒に入れた状態で回収した。

## 結果

団地住民 136 名から回収できた。

獲得的レジリエンスを従属変数としてソーシャルキャピタル・ストレス対処能力・年齢・性別・家族同居の有無などを独立変数として共分散構造分析した。

獲得的レジリエンスを高める要因は、基本属性としては、仕事を持っていることが強く影響し、ソーシャルキャピタルのすべての因子、ストレス対処能力は情報収集と計画性と肯定的解釈が影響しているモデルが構築された (CFI:0.989 RMSEA:0.033 AIC:138.806)。

## 考察

低所得の高齢者のコミュニティーのレジリエンスを高めるには、ソーシャルキャピタルを高める地域のイベントの計画や、防災訓練など積み重ねコーピング能力を高める介入の必要と考える。地域医療従事者は高齢者の身体能力に合わせた避難の練習や参加できるイベント企画などが必要と考える。

### 1)- 団地住民のソーシャルキャピタルがレジリエンスに影響する要因

社会参加の機会の増加に関しては、ソーシャルキャピタルと正の相関関係であると言われており、共に支え合い、健やかで心豊かな生活を国民が送るためには、ソーシャルキャピタルの醸成が不可欠である。また日本は、災害の発生が多く、災害を機に個人の健康を損ねたり、コミュニティーの崩壊が起きている。ソーシャルキャピタルの豊かな社会は、様々な困難に粘り強くしなやかに対応できる。この粘り強くしなやかに対応する力をレジリエンスと呼んでおり、近年注目されている概念である。住民個々のソーシャルキャピタルやストレス対処能力がレジリエンスにどのように影響しているのか明らかにされていない。

そこで個々の団地住民のレジリエンス向上プログラムとソーシャルキャピタル醸成のプログラムを組み合わせて、団地コミュニティーレジリエンス向上のプログラムモデル開発を検討している。本研究は、団地住民のソーシャルキャピタルとストレス対処能力が個人のレジリエンスにどのように関連しているのか分析する予備的研究である。研究対象者は団地の住民 1200 人(780 世帯)

## 方法

団地自治会の役員に協力してもらい各棟全戸にアンケートを配布した。アンケート用紙は無記名とし、基本情報として年齢、性別、家族同居の有無、レジリエンスとして二次元レジリエンス要因尺度、ソーシャルキャピタル尺度、ストレス対処能力で構成されている。研究協力に同意する住民は、アンケートに回答し、封筒に入れた状態で回収した。

## 結果

レジリエンスを従属変数としてソーシャルキャピタル・ストレス対処能力・年齢・性別・家族同居の有無などを独立変数として分析した。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1人暮らし	52	38.2	39.1	39.1
	夫婦2人暮らし	46	33.8	34.6	73.7
	親子	35	25.7	26.3	100.0
	合計	133	97.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	2.2		
合計		136	100.0		

### 現在の職業

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	有り	49	36.0	36.8	36.8
	無し	84	61.8	63.2	100.0
	合計	133	97.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	2.2		
合計		136	100.0		

### 1週間30分以上の外出が週

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
有効	.00	1	.7	.7	.7	
	.50	1	.7	.7	1.5	
	1.00	12	8.8	9.0	10.4	
	2.00	7	5.1	5.2	15.7	
	3.00	20	14.7	14.9	30.6	
	4.00	22	16.2	16.4	47.0	
	5.00	21	15.4	15.7	62.7	
	6.00	15	11.0	11.2	73.9	
	7.00	31	22.8	23.1	97.0	
	8.00	2	1.5	1.5	98.5	
	14.00	1	.7	.7	99.3	
	27.00	1	.7	.7	100.0	
	合計		134	98.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	1.5		
合計		136	100.0			

### 係数<sup>a</sup>

モデル		非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
1	(定数)	11.145	1.706		6.534	< .001
	カタルシス	.020	.181	.009	.113	.910
	放棄・諦め	-.097	.212	-.040	-.459	.647

情報収集	.081	.131	.048	.618	.538
気晴らし	.107	.148	.055	.721	.472
回避的思考	-.199	.207	-.091	-.958	.340
肯定的解釈	.399	.215	.183	1.857	.066
計画立案	.733	.184	.363	3.979	< .001
責任転嫁	-.101	.245	-.036	-.413	.680
かけがえのない地域	-.027	.102	-.031	-.268	.789
通じ合う安心感	.490	.159	.363	3.083	.003
住みやすい地域	.285	.269	.096	1.059	.292

a. 従属変数 獲得的レジリエンス要因

stepwise

モデル		非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
1	(定数)	13.773	2.503		5.503	< .001
	カタルシス	-.144	.266	-.046	-.543	.588
	放棄・諦め	-.179	.310	-.052	-.577	.565
	情報収集	.128	.193	.053	.665	.507
	気晴らし	.250	.218	.090	1.146	.254
	回避的思考	.210	.304	.067	.690	.491
	肯定的解釈	.635	.315	.203	2.015	.046
	計画立案	.614	.270	.212	2.270	.025
	責任転嫁	-.519	.359	-.130	-1.445	.151
	かけがえのない地域	.093	.150	.073	.619	.537
	通じ合う安心感	.487	.233	.251	2.088	.039
	住みやすい地域	.509	.395	.119	1.288	.200

a. 従属変数 資質的レジリエンス要因

考察

一般的にレジリエンス能力が高い人はコーピング能力の高いと言われているが、今回コーピング能力の中でも、物事をポジティブに考え段取り力だけが影響していた。またコミュニケーションのとれた関係も大切な為、災害に強い地域作りのために、様々な災害を想定した住民同士の訓練を充実する必要が明らかとなった。

2) アンケート調査結果を参考に自治会役員や会員に対するフォーカスグループインタビューを実施し、それらの結果を参考に健康談話や防災に関する話が話あえる集いの場築き、安定開催できるよう参加住民とその時々ニーズに合った企画を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、自治会活動が3年間停止し、その影響で調査団地の自治会の機能が低下した。調査介入期間を1年間延長したが、自治会機能の回復はせず活動調査介入協力を得ることができなくなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 黒瀧安紀子	4. 巻 47
2. 論文標題 日本におけるコミュニティ・レジリエンスに関する文献検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都橘大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 197-214
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 5件）

1. 発表者名 松本賢哉
2. 発表標題 Factors Affecting Resilience of Residents' Social Capital in Housing Complexes
3. 学会等名 The7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本賢哉
2. 発表標題 Factors influencing the acquisition of resilience capacities in communities where older families live
3. 学会等名 International Family Nursing Association - 16th International Family Nursing Conference（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川村晃右
2. 発表標題 Factors Related to Resilience of the Elderly by Family Type in Residential Complexes
3. 学会等名 International Family Nursing Association - 16th International Family Nursing Conference（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 黒瀧安紀子
2. 発表標題 Conceptual Analysis of Community Resilience in Japan
3. 学会等名 EAFONS2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 黒瀧安紀子
2. 発表標題 Conceptual Analysis of Community Resilience in Japan
3. 学会等名 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前川 宣子 (河原宣子)  (maekawa noriko)  (00259384)	京都橘大学・看護学部・教授    (34309)	
研究分担者	川村 晃右  (kawamura kousuke)  (20708961)	京都橘大学・看護学部・専任講師    (34309)	
研究分担者	石井 美由紀  (ishii miyuki)  (40437447)	京都橘大学・看護学部・准教授    (34309)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	黒瀧 安紀子  (kurotaki akiko)  (70593630)	京都橋大学・看護学部・専任講師    (34309)	
研究分担者	野島 敬祐  (nojima keisuke)  (70616127)	京都橋大学・看護学部・准教授    (34309)	
研究分担者	十倉 絵美  (tokura emi)  (80807462)	京都橋大学・看護学部・助教F    (34309)	
研究分担者	工藤 里香  (kudou rika)  (80364032)	富山県立大学・看護学部・准教授    (23201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars	開催年 2020年～2020年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------